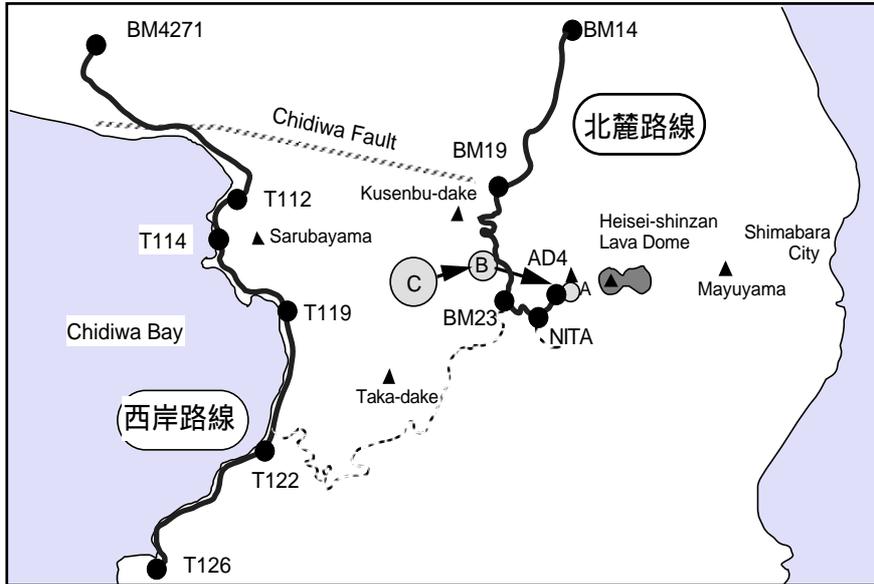


2001年 雲仙岳水準測量結果

2001年度 調査参加機関

九大地震火山センター・京大理阿蘇

名大地震火山センター・鹿児島大理学部



雲仙火山周辺では1991年5月の溶岩ドームの出現以来、地下のマグマの減少により西麓を中心に地盤沈降が続き、溶岩流出が停止した1995年には最大8cmの沈降が見られた。

1996年以降西岸路線を中心に隆起傾向がみられ、最大1.5cmの隆起があった。これは圧力源Cの膨張と考えられた。

2001年の測量結果では、1999年と比べ西岸路線南側で約5mmの隆起があったが、北側はほとんど変化がなかった。

北麓路線は、隆起傾向が見られていたが、2001年結果では、沈降に転じている。これは、圧力源AやBの収縮の影響が大きいと考えられる。

雲仙西岸路線水準測量結果

